創ろう！守ろう！ みんなの公共交通
地域検討会　　かわら版

仁保・小鯖・大内　編
平成 29 年 3 月発行

山口市では、マイカーへの依存が進行しており、交通弱者の増加や自然環境への悪影響、さらには人口や都市機能の郊外拡散による中心市街地の活力低下など、様々な社会問題が起きています。

少子高齢化の進展に伴い日本の総人口が減少に転じるなど、社会の構造が根本から変わろうとしている中で、より良い環境を創造し、持続的な社会を築いていくためには、自らの生活利便性を追求するだけでなく、将来を見据えた取り組みを着実に進めていく必要があります。

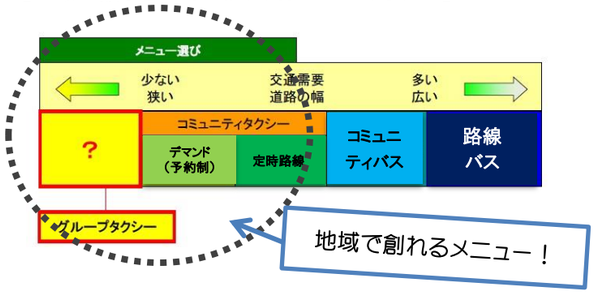
こうしたことから、市民が将来に不安を感じることなく、安心して生活できるよう、マイカーに頼り過ぎず、移動手段の軸足を公共交通へ転換していくために、まちづくりや地域づくりなど総合的な観点から「山口市市民交通計画」を平成 19 年に策定し取り組んできました。

当初の地域検討会から、交通弱者のためになんとかしたいとコミュニティタクシーの運営組織（小鯖・宮野・嘉川・小郡・秋穂・佐山・阿知須・島地）が立ち上がり、少しずつ乗車率も上がっていますが 50%を超えているのは小郡地域のみです。１地域では運行中止となりました。併せて路線バス、コミュニティバスとも利用者は減少しています。更なる交通弱者への対策としてグループタクシー（相乗り）の仕組みも新設し、利用券の交付制度もあります。

しかしながら、平成 28 年に実施した「公共交通に関する市民アンケート」での、市民の公共交通の満足度は「満足 7.5%」「やや満足 20.1%」と低く、将来への移動手段については「とても不安 38%」「やや不安 34.9%」と高くなっています。この現状を打破し、「クルマがないと生活できない山口からクルマがなくても生活できる山口」に転換していくためには、地域の幅広いみなさんの現状への理解と協力なしでは進めることはできません。そこでこの度市内の全地域を網羅して検討会を開催していくこととなりました。

【山口市の 75 歳以上人口を 1 とした場合の
生産年齢人口、年少人口の人数比】

【地域の話し合いで生まれたグループタクシー】



山口市の主な支援制度

○乗り合わせるほどお得なグループタクシーの利用券交付･･･65 歳以上、最寄りの公共交通機関から 1km(75 歳以上 700m)以上離れている方、他のタクシー利用券制度(福祉系)を受けていない方を対象にキロ数に応じて年間 60 枚交付

○福祉優待バス乗車証･･･70 歳以上、市内の路線バスに限り一乗車 100 円

○おでかけサポート券･･･要支援･要介護認定を受けている方、介護予防･日常生活支援サービス事業対象者（福祉タクシー･グループタクシー利用券と重複は不可）一乗車 300 円の利用券使用可能。1000 円超えるごとに 1 枚ずつ追加使用可能。年間 40 枚交付

○サイクル＆ライド、パーク＆ライド(乗り換え専用の駐輪場･駐車場)

○ノーマイカーデー参加登録者への毎月第3金曜日のバス半額割引

○バス停上屋設置の補助金
補助対象経費の 2/3 以内、
補助限度額 70 万円

など

詳細は、山口市交通政策課までお問い合わせください！

参加者アンケートより<22 名回答>

Q 地域検討会への参加により公共交通への理解が深まりましたか？

①深　ま っ た　15 人
②どちらともいえない　4 人
③深 まらなかった　1 人

Q 公共交通を利用しようと思いますか？

①引き続き利用する　9 人
②これからは利用する　8 人
③わ か ら な い　2 人
④利　用 し な い　3 人

Q 公共交通を守る必要を感じましたか？

①感　じ た　21 人
②どちらともいえない　1 人

Q 地域での話し合いの必要性を感じましたか？

①感　じ た　21 人
②どちらともいえない　1 人

【感想(抜粋)】

○交通行政の中で公共交通の役割を考えさせられました。

○時間がもう少しあれば議論が深まったと思う。

○これからやること多い。学童通学道路は必ずスピード制限、大きな看板を。

○自由討論の時間が少ない。他地区の実情が知りたかった。大内だけでも月一回は検討会を開いてもらいたい。地元の意見が大切。

○検討会の結果を要約したプリントが欲しい。

○森栗先生が話されたとおり、地域の者が、自分が困ることを先送りすることなく、皆で相談し、実施するよう努力することが大切だと感じた。

○公共にお願いするだけでなく、いかにして共助で住民のためになる知恵を出し合おう。

○ワークショップ形式ではなく、今少し問題に特化した議論が必要ではないかと思いました。

○世代や地域によって感じることが様々で、いろんな地域ニーズもわかった。「自分たちでなんとかしていく」ということだが、これからどうやっていくか、地域で考えていく機会が、何度もいるのかな。

創ろう！守ろう！みんなの公共交通　地域検討会　　かわら版　仁保・小鯖・大内編
発行：山口市都市政策部交通政策課　〒753-8650　山口市亀山町 2-1
TEL　083-934-2729　FAX　083-934-2959
編集：山口市市民活動支援センターさぽらんて　〒753-0047　山口市道場門前 1-2-19
TEL　083-901-1166　FAX　083-901-1165

3 月 6 日（月）大内地域交流センターにおいて、仁保・小鯖・大内の方々22 名の参加の中地域検討会が始まりました。
最初に山口市の交通計画についての説明を受け、現状の課題をわかちあい、専門家の意見を頂き、課題を解決するアイディアを出し合いました。その概要をお伝えします。

■現状をわかちあう！■

交通弱者

バス停まで一苦労
高齢者の買い物･通院交通手段がない
免許返納後の交通手段････免許返納進んでいます！

グループタクシー

距離制限をゆるやかに
行く先が違いグループ分けが難しい
料金負担額の違いの調整が難しい
男性、女性の相乗りが難しい
グループタクシーの制度を知らない人が多い
グループタクシー、福祉タクシーの利用の仕方が難しい

利便性

JR 仁保駅にトイレがない
バス停に屋根やベンチがない
スゴカが使えない
バス停がどこかわからない
低床式バスに

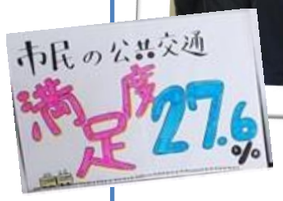
危険

大内旧道（氷上）の車のスピード制限
旧道と千坊地域の学童道路危険
大内地域は交通危険地域が多い、バスを小型化に

接続･便数

路線バスとの接続が悪い
県庁ターミナルでの接続が悪い
JR までの公共交通がない
大内もコミバスが通らないところがあるのになぜジャンボ（コミタク）を走らせない？
ゆめタウンに乗り入れしてほしい
コミバスとコミタクの乗り継ぎをよくしてほしい
遅い時間の便がほしい
大内地域交流センターにもバス停を

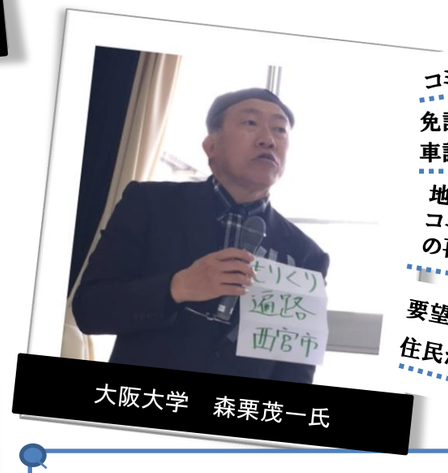
交通ジャーナリスト　鈴木文彦氏



これから地域ですすめるために・・・

公共交通は他人ごとではない、免許返納した高齢者も子育てママも境遇は同じ。地域みんなで考え、永遠に続くようにしていく必要がある。そのために・・・・

- 話し合い（地域核をどうする？地域ごとのルートは？公共施設を増やし利用促進を）
- 体験する（自治会・こども会でバスツアー企画→利便性調査）
- 高齢者の外出を促すしくみ（行楽・楽しみ・声掛け）



大阪大学　森栗茂一氏

コミバス利用促進！

免許返納して、優待バス乗車証で元気ピンピン！

地域ごとの都市核を考え、コミバス、コミタク、グルタクの再編を

要望だけでは何もできない！
住民が動かなければ・・・

■アイディアいろいろ■

体験ツアー

買い物ツアー･お花見ツアー
↓
まずは、使ってみようという気持ちになってもらう

小さいうちから公共交通を利用する機会をつくる（小 3 以下で）

みんなで作ろう！

バス停のベンチの設置を

JR 仁保駅に仁保産の木材でログハウストイレを作るぞ！（手作り）
＋暖かい待合所もできるといい！

スーパーまるしょうをバス待合所＆住民のいこいの場を作りましょう（仁保）

森林税と同様
交通税を！！

地域で再編！

必要な（魅力的な）路線の洗い出しにより全体のバランスを考え楽しめるように再編
利便性の調査、自治会の積極的な取組

地域内の巡回を充実させる（大内）

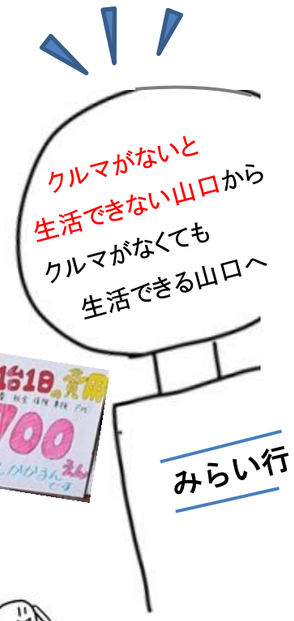
フリー乗車区間を拡大→グループタクシーへの移行

仁保やまびこ号を朝の通勤通学に仁保駅へ！
ゆめタウンや宮野駅までの路線延長を

コミタクについて通常運行に加えデマンド方式を採用

コミバスについて　第二次の交通政策策定に当たり路線バスが過去廃止された路線について年齢構成、住民の要望等を検討

協働力により、単地域の事業による公共運用を目指すべき

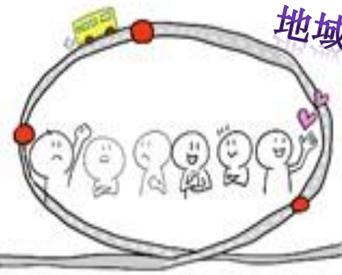


～公共交通は、まちづくりの要～

■公共交通は社会のインフラ
誰もが自分の意思で移動できる（高齢者・子育て世代）
災害時に移動を支えられる

■集い歩くことが賑わいに
生活に必要な施設をつなぐ公共交通ネットワーク
多少の不便も「健康増進」と割り切る

■こどもの教育
こどもの社会との関わりが増す



みんなで創る
持続できる
地域公共交通！